

## 「平成 26 年雇用動向調査結果」の概況

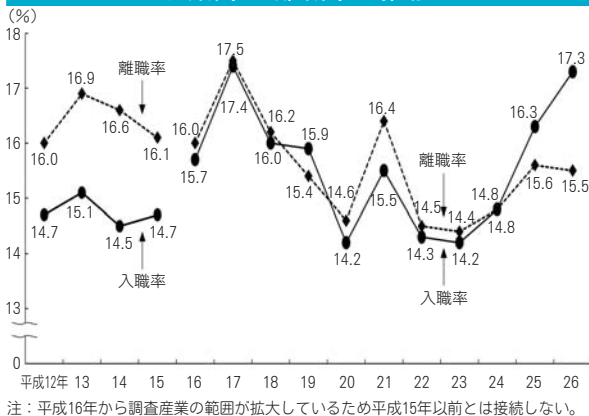
平成 27 年 8 月 27 日に厚生労働省が発表した、「平成 26 年雇用動向調査結果の概況」（平成 26 年上半期、下半期の 2 回の調査結果を合算して年計として取りまとめたもの）によると、平成 26 年 1 年間の入職率は前年より 1.0 ポイント上昇、離職率は 0.1 ポイント低下しました。転職入職者の賃金が前職に比べ「増加」した者の割合は前年より 4.8 ポイント上昇し、「減少」した者の割合は 2.2 ポイント低下した結果「増加」が「減少」を上回りました。

### 1. 入職率、離職率の推移

平成 26 年 1 年間の入職率〔在籍者に対する入職者（調査対象期間中の採用者）の割合〕は 17.3 %（平成 25 年 16.3%）で前年より 1.0 ポイント上昇、離職率〔在職者に対する離職者（調査対象期間中の退職・解雇者）の割合〕は 15.5%（同 15.6%）で前年より 0.1 ポイント低下しました。その結果、入職超過幅は前年の 0.7 ポイントから 1.8 ポイントに 1.1 ポイント拡大し、2 年連続の入職超過となりました。

なお、入職率と離職率を合わせた延べ労働移動率は 32.8%（同 31.9%）で、3 年連続の上昇となっています。

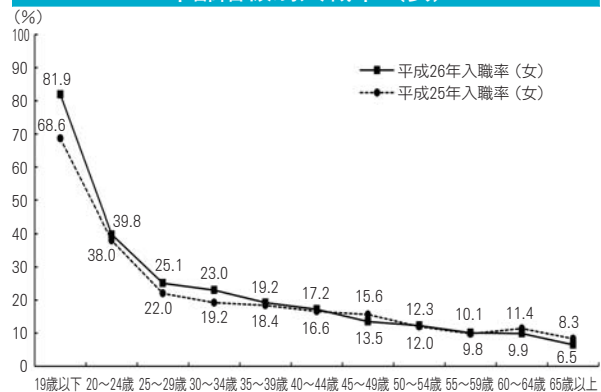
入職率・離職率の推移



### 2. 年齢階級別に入職と離職

平成 26 年 1 年間の入職率を性別、年齢階級別に前年と比較すると、男性の入職率は一部の年齢階級を除き 1 ポイント以内の変動となっています。女性の入職率は 45～49 歳、60～64 歳、65 歳以上を除いて上昇しています。

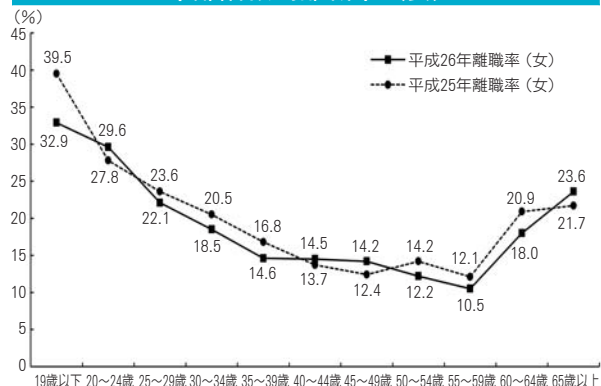
年齢階級別入職率（女）



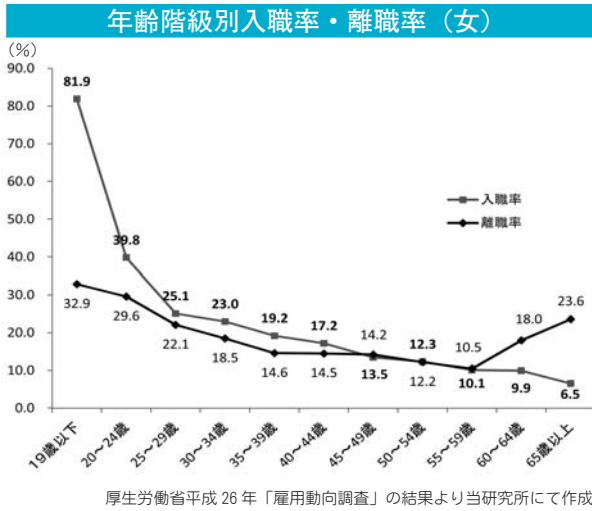
また、離職率を性別、年齢階級別に前年と比較すると、男性の離職率は 19 歳以下を除き 1 ポイント以内の変動となっています。女性の離職率は 20～24 歳、40～44 歳、45～49 歳及び 65 歳以上を除き低下しています。（男性の年齢階級別入職率表は掲載省略）

平成 26 年 1 年間の女性の入職率と離職率を年齢別に比較すると、45～49 歳、55～59 歳、60～64 歳、65 歳以上を除くすべての年代で、入職率が離職率を上回り、「入職超過」となっています。

年齢階級別離職率（女）



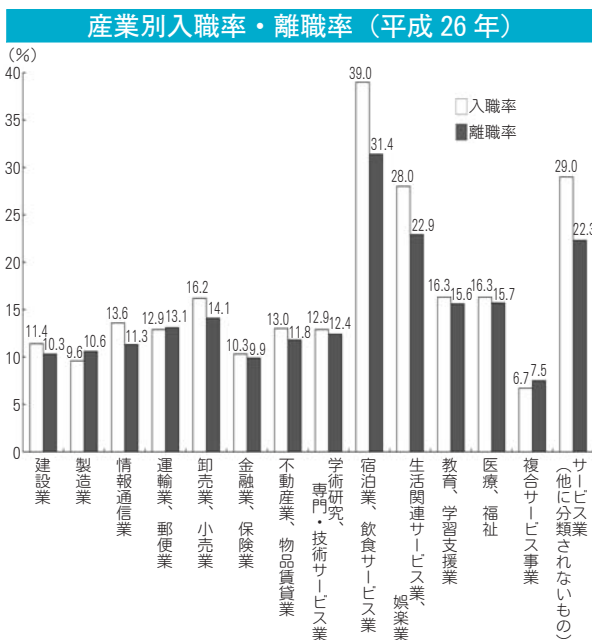
25～29歳、30～34歳、50～54歳の各年代では、過去統計がある平成20年以降初めて入職超過となりました。



### 3. 産業別の入職と離職

産業別の入職率・離職率は、いずれも「宿泊業、飲食サービス業」がもっとも高く、他には「サービス業（他に分類されないもの）」、「生活関連サービス業、娯楽業」などが高くなりました。

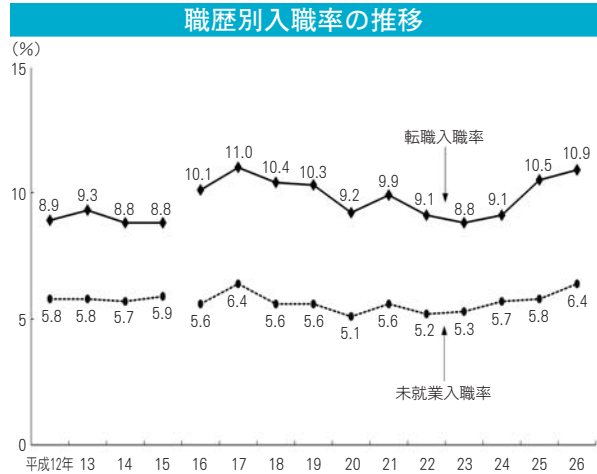
なお、「学術研究、専門・技術サービス業」が入職超過に転じたことで、16大産業のうち入職率が超過したのは12産業となり、前年の11産業を上回っています。



### 4. 職歴別入職者数、入職率の推移

平成26年1年間の入職者を職歴別にみると、転職入職者数は5,036.3千人（平成25年4,841.7千人）で転職入職率が10.9%（同10.5%）、未就業入職者数は2,942.2千人（同2,651.3千人）で未就業入職率が6.4%（同5.8%）となりました。

前年と比べると、転職入職率は0.4ポイント、未就業入職率は0.6ポイント上昇しています。



### 5. 転職入職者の賃金変動状況

転職入職者の賃金変動状況を見ると、前職の賃金に比べ「増加」した者の割合は36.6%（平成25年31.8%）で前年より4.8ポイント上昇、「減少」した者の割合は31.6%（同33.8%）で前年より2.2ポイント低下しました。この結果、「増加」が「減少」を上回りました。

区分	計	増加	1割以上の増加	1割未満の増加	変わらない	減少	1割未満の減少	1割以上の減少	増加-減少 (ポイント)
平成26年計 (%)	100.0	36.6	23.9	12.8	29.5	31.6	7.4	24.3	5.0
平成25年計 (%)	100.0	31.8	21.0	10.8	32.9	33.8	8.1	25.6	-2.0

「入職超過幅」が前年比べて1.1ポイント拡大し、転職入職者の賃金増加者割合が上昇するなど、景気回復の兆しが見られます。また、女性の入職率上昇要因には、景気回復はもとより、働く女性を応援する政策の影響もあると思われます。

（黒田真子）